

六甲山の昆虫相調査で採集されたハイイロテントウ — 兵庫県立人と自然の博物館昆虫相調査による — 山本 勝也・勝又 千寿代

ハイイロテントウ *Olla v-nigrum* (Mulsant, 1866) は北米、メキシコに分布しているテントウムシ科 Coccinellidae の甲虫で北米、中南米に分布する *Olla* 属4種の中の一つ¹⁾である。過去ハワイ諸島、グアム島に害虫駆除を目的として移入されたが定着しているかどうかは調べられていない²⁾。本種は1980年代、沖縄本島に移入し急速に分布域を広げ、すでに沖縄本島には多産し、周辺諸島にもほぼ定着したものと考えられている。

本邦での初記録は1989年5月30日、沖縄本島本部

半島今帰仁で採集された♀の1個体により報告された(大桃・佐々治, 1989)。またそれと同時に前後して、すでに採集されていた記録が報告された(14.VI.1987, 恩納村安富祖, 1ex. など(上野・佐々治1989))。

その後沖縄本島以外では沖縄県勝連村浜比嘉島(8.VI.1988)の離島での記録が報告された。またこの報告では、1987~88年頃にはすでに本島南部で普通、瀬長島で多産しギンネム樹上に多数見られたことが報告されている(楠井1989)。その他、本島以外の南西諸島で以下のような報告がある。

報告年	採集日	採集場所	頭数	採集者・保管者・報告者	文献
1988	8.VI.1988	沖縄県勝連村浜比嘉島	3exs.	楠井善久採集・保管	4)
1989	20.V.1989	渡名喜島	2exs.	上野採集・保管	5)
1989	11.XI.1989	久米島大原	3exs.	東清二採集 琉球大学保管	5)
1990	6.IV.1990	波照間島	1ex.	金子義紀採集	7)
1990	16.IV.1990	池間島	5exs.	金子義紀採集	7)
1992	5.V.1992	久米島大原	27exs.	山崎隆弘採集	6)
1993	4.V.1993	石垣島平久保	1ex.	金子義紀採集	7)
1993	23.V.1993	宮古島平良市熱帯植物園	1ex.	野田正美採集・保管	8)
1993	24.V.1993	伊良部島佐和田	6exs.	野田正美採集・保管	8)
1994	25.I.1994	南大東島池之沢		齋藤私信	未発表
-		北大東島			12)
-		与論島			12)
1997	23-25.V.1997	沖縄県島尻郡南大東村西港	24exs.	西野洋樹採集・目撃	10)
1999	29.IV.1999	沖縄県南大東村高幕付近	2exs.	税所康正・税所智子採集	9)
1999	5.VI.1999	沖縄県島尻郡南大東村池之瀬	2exs.	西野洋樹採集・目撃	10)
2001	5.V.2001	鹿児島県奄美郡与論島那間	多数	山崎隆弘採集・私信	未発表
2001	7.V.2001	沖縄県名護市屋我地島	多数	山崎隆弘採集・私信	未発表
2001	8.V.2001	沖縄県本部町瀬底島	多数	山崎隆弘採集・私信	未発表

このたび兵庫県立人と自然の博物館と兵庫昆虫同好会との共催で、地域昆虫相調査2001が実施され、兵庫県神戸市の六甲山山頂部に残るブナ林を中心とした周辺部の昆虫相の調査が行われた。その際のライトトラップにハイイロテントウが飛来し、筆者の一人勝又が採集した。ここにその記録を書き記す。

2001.VIII.5, 神戸市灘区六甲山極楽茶屋, alt.860m, light, 勝又千寿代 leg., 1ex., 山本勝也同定, 兵庫県立人と自然の博物館標本保管。

この記録は本種の南西諸島以北、本州での初記録となる。

本種が今までの生息域を大きく越え、本州西部において採集されたことで、筆者は本種の分布拡張、

移入について興味深く感じた。他地域との多くの物流がある港湾を有する神戸地区および、それを含む兵庫県南西部においては中国南部、台湾からの移入種としてあまりにも有名なキベリハムシ *Oides bowringii* (Baly) やチャゴマフカミキリ *Mesosa perplexa* Pascoe などの特筆される昆虫類が定着生息している。また近年では *Blatta late-ralis* (Walker) のような中央アジア産のゴキブリ類の報告¹¹⁾や昆虫以外でもオセアニアのセアカゴケグモなども話題にあがる。今回六甲山で採集されたハイイロテントウもこのような移入種であると思われる。

筆者の一人、山本の沖縄本島名護市山入端(2001.V.16-17-18)での観察では夜間、海岸線近くの水銀

灯に多数の本種が来集していた。また今回六甲山でもライトトラップに来たことにより、本種は走光性を持つものと考えられる。また佐々治寛之博士がご指摘のように、本種の沖縄への移入は北米からの船舶が関与していると考えられている。以上の事から、今回採集された個体は、本種の生息域に停泊する船舶の灯りに集まったものが神戸港に接岸した際に上陸し、吹き上げの風に乗って六甲山山頂付近まで達したと考えることもできる。本種にはナミテントウ *Harmonia axyridis* (Pallas) のような斑紋変異が見られるようであるが、沖縄での本種は黒点の大小はあるものの、いずれも安定した基本形である¹⁾という。今回の採集品も基本形である事から、本個体は沖縄からの移入の可能性が考えられる。今後本種が本州に定着し、分布域を広げることができるのかどうか、追加採集の報告に興味のあるところである。

本種は捕食性の種²⁾であり、ホストとしては沖縄での観察例として、中米原産の移入植物であるギンネム(ギンゴウカン) *Leucaena leucocephala*³⁾ につくギンネムキジラミ *Heteropsylla incisa*⁴⁾ の可能性⁵⁾ が報告されている。農作物を食害するようなものではないため害虫とはいえないが、生態系の攪乱という点では配慮する必要がある⁶⁾ と指摘されている。また北米での分布を考えると本邦での越冬についても問題ない⁷⁾ とされている。

最後にこの文を書くにあたり、地域昆虫相調査2001でご指導いただいた兵庫県立人と自然の博物館の中西明德博士、八木 剛博士、兵庫昆虫同好会

事務局の高島 昭氏、調査に参加された諸氏に深く感謝し、また個人的に資料をご提供いただいた齋藤 琢巳、山崎隆弘両氏に厚くお礼申し上げる。

〈参考文献〉

- 1) 佐々治寛之(1992) COLEOPTERISTS' NEWS (100) : 10-13.
- 2) 大桃定洋・佐々治寛之(1989) 月刊むし(223) : 38.
- 3) 上野輝久・佐々治寛之(1989) 月刊むし(223) : 38.
- 4) 楠井善久(1989) 月刊むし(226) : 11-12.
- 5) 上野輝久(1990) 月刊むし(227) : 41.
- 6) 山崎隆弘(1993) 月刊むし(267) : 41.
- 7) 金子義紀(1994) 月刊むし(282) : 30-31.
- 8) 野田正美(1994) 月刊むし(285) : 34.
- 9) 税所康正・税所智子(1999) 月刊むし(345) : 42.
- 10) 西野洋樹(2000) 月刊むし(354) : 42-43.
- 11) 幸形 聡(2001) 月刊むし(370) : 16.
- 12) 金城政勝(1996) 沖縄昆虫野外観察図鑑第6巻 : 128-131.
- 13) 佐竹義輔 他(1995) フィールド版日本の野生植物 木本 : 75

(YAMAMOTO KATSUYA

神戸市須磨区須磨寺町2丁目1-1)

(KATSUMATA CHIZUYO

三田市弥生が丘6丁目 人と自然の博物館)

氷上郡市島町の昆虫 1

稲畑 憲昭

筆者は1994年から市島町の妙高山とそのふもとで昆虫を採集してきた。その個体数は膨大でありすべてを標本にして同定するのは時間がかかりすぎるので不完全ながら同定できた分から順次発表することにした。採集データは個体数、日付、場所、採集状況、同定者、保管者の順である。

採集場所は氷上郡市島町妙高山と氷上郡市島町北奥塚原、氷上郡市島町北奥神池、氷上郡市島町北奥末谷であるが省略している。

採集状況はラベルにあるとおりに書いた。

特に記していないものは筆者採集、保管である。

Elateridae コメツキムシ科

Pityobiinae

1. *Pectocera hige hige* Kishii, 1993 ヒゲコメツキ
1male, 4.V.1994, 塚原, det. T. Kishii, 2000
旧公民館の近くで下草の葉上から
1male, 29.IV.1997, 塚原, det. T. Kishii, 2000
アマゴの家の隣の林縁の畑のモミジから

Agrypninae

2. *Agrypnus (Agrypnus) binodulus binodulus* (Motschulsky, 1861) サビキコリ
1female, 17.IX.1996, 塚原, det. T. Kishii, 2000